

熊本地震

熊本赤十字病院の活動記録

大震災の教訓と未来への提言―



「熊本地震2016 熊本赤十字病院の活動記録」の刊行に寄せて

熊本赤十字病院 院長
一 二 三 倫 郎

平成28年4月14、16日に熊本を震度7の直下型地震が襲った。日奈久・布田川断層の存在は念頭にはあったものの、瞬間的に虚をつかれた思いがしたのも事実である。当院は本震の震源からわずか3.5kmに位置し、ずれ動いた断層面上に存在していた。近隣の多くの医療機関が診療機能を失う状況の中で、当院の診療機能は辛うじて保持されていた。そのような状況のなかで当院に課されたのは、熊本県基幹災害医療センター、救命センター、小児救命センター、ドクターヘリ基地病院、DMAT参集拠点、日赤救護活動の拠点としての役割など極めて多岐にわたるものであった。職員の半数以上が自ら被災した状況にありながら、発災直後から救命や救護活動に全力で対応してくれた。その医療人としての精神性の崇高さと技術力の高さには目を見張るものがあった。また、この災害救援活動においては、熊本が全国に先駆けて構築した医療連携が見事に機能し、最大級の困難な状況の中でも熊本の医療が崩壊することはなかった。この事実は特筆すべきことであり、見事としか表現しようがない。

今回の熊本地震において当院は被災病院としてさまざまな経験をしたが、平時の備えとして病院の災害要塞化に取り組み、各種の訓練を繰り返していたおかげで、震災直後の対応も「混雑はしたが、混乱はしない」で乗り切ることができた。また、全国の赤十字の仲間が救護班として、あるいは病院支援班として私たちを支えてくれたおかげで、孤立感を強く感じることなく活動できたことは本当に有り難いことであった。その一方で、全国から多くの団体が災害救援に結集する時代にあって、団体相互の連携は情報共有や役割分担など多くの分野で極めて難しい状況があった。早急に克服すべき多くの課題を残したことも事実である。

今回の熊本地震における当院の発災直後からの活動記録集を刊行することの意味は、震災の記憶を記録に残し、対応の検証結果を次の災害対応に活かすことにある。まさに地震、風水害など大きな自然災害が多発する「大災害の時代」に突入した現代において、この活動記録集が今後の災害対応を考える上での、参考になれば幸いである。熊本の復旧、復興の一日も早い進展を祈りながら本記録集刊行の序といたします。

平成29年6月

Contents

「熊本地震2016 熊本赤十字病院の活動記録」の刊行に寄せて

「平成28年熊本地震」

写真で見る地震後の活動	4
地震の概要	8
県内被害の状況・避難の状況	9
熊本地震時系列ドキュメント	10

第1章 病院の概要と建物・ライフラインの被害状況 19

第2章 数字で見る病院の活動 29

第3章 病院の活動と活動の検証・提言

災害対策本部	38
救急部門 救急患者への対応	42
診療統括エリア	44
トリアージエリア	48
軽症エリア	50
中等症エリア	52
重症エリア	56

第4章 被災地における医療救護チームの活動

熊本地震における災害医療	
コーディネーターとしての活動	62
ICT	66
DVT	68
WOC	70
WATSAN	72
日赤熊本救護班	74
熊本赤十字病院DMATの現場活動	76
DMATの受け入れ	78
健康支援事業	80
ドクターヘリの運用	82

第5章 各部門の活動

1. 病棟・外来部門	
看護部 病棟部門	86
看護部 外来部門	88
こども医療センター	90
2. 中央診療部門	
手術センター・手術センター ME 係	92
画像診断治療センター	94
検査部	96
腎センター	98
3. 地域連携部門	
地域医療連携室	100
4. 物流供給部門	
薬剤部	102
購入管理課	104
栄養課(患者給食)	106
臨床工学課	108
リハビリテーション科部	109
5. 通信連絡部門	
病歴センター・医事部門	110
システム部門	114
広報部門	116
6. 日赤九州ブロック研修センター アソシエート	118

職員のサポートと病院支援の受け入れ 120

資料編 地震対応関連資料

全国赤十字医療機関からの病院支援	125
赤十字救護班による病院業務支援	127
各医療機関からの支援医師	
被災地における医療救護チームの活動	128
DVTチーム院外保健衛生活動実施者数	
KEEPによるDVTフォローアップ検診	
院内受け入れ患者数(DVT・PTE)	130
WATSANチーム設置救援資機材一覧(時系列)	
メディア露出実績	131
支援物資リスト	132
熊本赤十字病院 主な国内災害救護活動の軌跡	134

編集後記 135

平成28年熊本地震

写真で見る地震後の活動

まさか熊本で…2度にわたる震度7の地震。
それでも目の前にいる傷ついた人を救うこと、
人と社会のまさかの時に寄り添うこと、
それが私たちの使命。

4・14 前震 M6.5
21:26

4・16 本震 M7.3
1:25



「混雑はしたが混乱はしなかった」
災害医療に対する平時からの備えと
それを動かすマンパワーこそが
最大の支えであり“チカラ”となった

- ① 心臓マッサージをしながら被災患者を重症エリアへ搬送する看護師ら
- ② 前震後、院長のもと災害対策本部の立ち上げを行う職員ら
- ③ 本震前の16日未明。震源地に向け出動するディザスターレスキュー
- ④ ストレッチャーが足りずタンカのまま診療を受ける被災患者
- ⑤ 軽症エリアにはガラス片や瓦礫による負傷者が多数押し寄せた
- ⑥ 毎朝夕、全職種の代表者が集まり情報共有を行った
- ⑦ 水不足のため透析患者の受け入れ先を必死に探す医師と看護師
- ⑧ 余震が続く中、安全を確保しながら被災患者を運ぶ看護師ら
- ⑨ 生まれたばかりの新生児を余震の危険から守る助産師
- ⑩ エレベーターが使えず調理師らは8階まで階段で患者給食を運び提供した



全国からかけつけた人々と送られてきた物資
一人一人の“チカラと”キモチ”に感謝し
この経験を後世に伝え
残していかなければならない

- ⑪ 災害対策本部では想定を越える状況に臨機応変な対応が求められた
- ⑫ 日赤熊本県支部本部に病院の状況を説明し、リエゾン役を務める副院長
- ⑬ 患者家族対応のため、対応窓口を設置
- ⑭ 全国から駆けつけた病院支援の赤十字職員
- ⑮ 本部には支援者から想いの詰まった救援物資が数多く寄せられた
- ⑯ DMAT本部となった当院には多くの隊員が参集
- ⑰ 病院の危機を救った自衛隊による24時間体制の給水活動



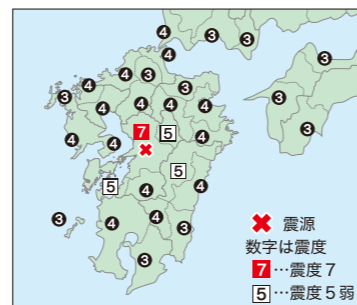
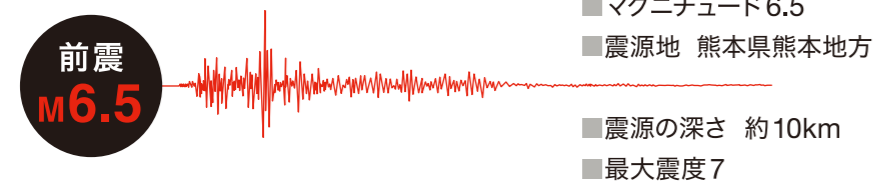
- ⑱ 努力で身に着けた技術と知識を活かし被災地で巡回診療を行う研修医
- ⑲ 被災地でエコノミークラス症候群の予防法を指導する看護師ら
- ⑳ 被災地に出向き子どもたちに寄り添う病院保育士
©Ichigo Sugawara
- ㉑ 感染症患者隔離テントの設置を行う事務管理要員
- ㉒ 被災者のため避難所にシャワー設備を設置
- ㉓ 出勤前に被災地の状況と活動の打合せを行う救護員ら
- ㉔ 2度の揺れによる建物被害は想像を超えていた
- ㉕ 患者と現場職員の負担を少なく。改修工事の段取りを検討する職員ら
- ㉖ 工事前、医師らが付き添い約50人の患者を移動。全病棟でこの工程を繰り返した
- ㉗ 復旧工事は約1年に及んだ



平成28年(2016年)熊本地震

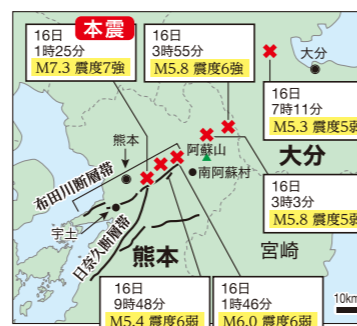
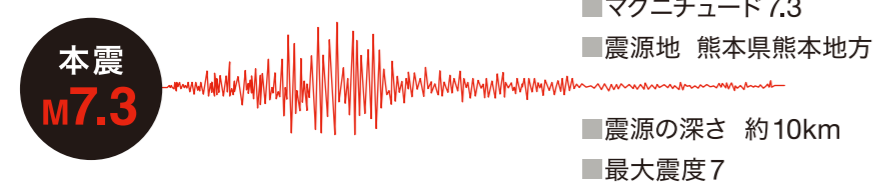
地震の概要

4月14日(木) 21時26分



前震時の各地域の主な震度 (14日21時26分ごろ)

4月16日(土) 1時25分



本震以降に発生した主な地震

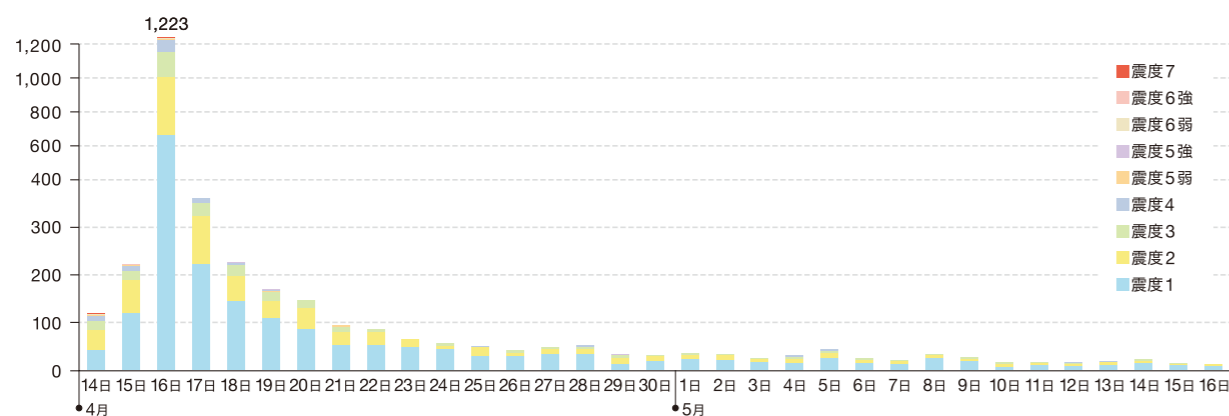
■ 本震時に震度6弱以上を記録した市町村人口

約 **148万人** (熊本県人口の83%)

■ 熊本地震発生以降の地震回数 (平成28年4月14日21時~平成29年5月10日24時)



■ 震度1以上の最大震度別地震回数 (平成28年4月14日21時~5月16日24時) 気象庁地震火山部



県内被害の状況

平成29年5月12日13時30分現在 ライフライン被害は最大被害戸数

人的被害

死者 **222人**

死亡 **50人**

※警察が検視により確認している死者数 (熊本市4、南阿蘇村16、西原村5、御船町1、嘉島町3、益城町20、八代市1)

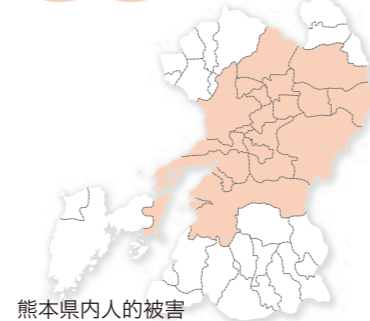
災害関連死 **167人**

※災害による負傷の悪化または避難生活等における身体的負担による死者数 (熊本市63、宇土市7、宇城市8、美里町1、菊池市3、合志市6、大津町4、菊陽町6、阿蘇市17、高森町3、南阿蘇村11、西原村3、御船町8、嘉島町2、益城町17、甲佐町3、山都町1、八代市3、氷川町1)

二次災害死 **5人**

※6月19日~25日発生の豪雨による被害のうち熊本地震との関連が認められた死者数 (熊本市2、宇土市2、上天草市1)

負傷者 **2,694人**



住家被害



総計 **191,216棟**

全壊	8,664棟	仮設住宅	4,303戸 (16市町村、整備完了)
半壊	34,026棟	みなし仮設/入居申請	15,590戸 (25市町村)
一部損壊	147,742棟	提供予定	14,600戸
6月19日~25日発生の豪雨による被害のうち熊本地震との関連が認められたもの	784棟	罹災証明交付件数	203,466件

ライフライン被害 ※最大被害戸数

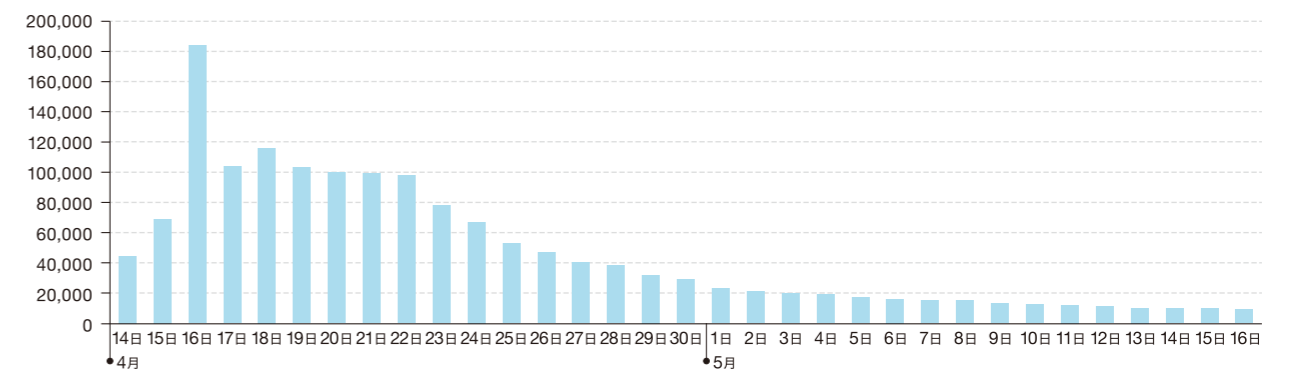
電力/停電	476,600戸 (九州電力調べ)
ガス/供給停止	100,884戸 (一般社団法人日本ガス協会調べ)
水道/断水	432,457戸 (県内21市町村) 九州全体 445,857戸 (厚生労働省調べ)

避難の状況

(平成28年4月15日~5月16日) 避難所以外を除く



避難者数(最大) **183,882人** (県人口の10.3%)



熊本地震時系列ドキュメント

月日	時	地震の被災・被害状況
4月14日(木)	21:26	前震 マグニチュード6.5(暫定値) 震度7の地震発生(後日、気象庁が前震と発表)
	21:58	熊本市中央区下通でビルの外壁が散乱
	22:40	蒲島郁夫知事が自衛隊に災害派遣を要請
	23:00	熊本城で櫓方門脇の石垣が崩れているのが見つかる
	23:20	政府が地震非常災害対策本部の第1回本部会議
4月15日(金)	0:03	震度6強の余震。益城町役場前の避難者から悲鳴
	3:46	崩れ落ちた住宅から生後8カ月の赤ちゃん救出
	4:44	益城町の避難所に熊日朝刊が配られる
	6:27	県警が9人の死亡を確認と発表
	6:43	熊本城天守閣の屋根瓦が崩れているのを上空のヘリから確認
	10:30	気象庁が「平成28年(2016年)熊本地震」と命名したと発表
	11:30	熊本市が緊急節水警報
	13:30	益城町の西村博則町長が報道陣の取材に「町民が困らないようにしたい」
	19:20	自衛隊が益城町の避難所に簡易浴場を設置
	22:00すぎ	益城町の担当者が報道陣に現状報告。「21時時点で、町内7カ所の避難所に1890人以上が避難していると把握している」
4月16日(土)	1:25	本震 マグニチュード7.3(暫定値) 南阿蘇村や菊池市、宇土市、大津町、嘉島町、宇城市、合志市、熊本市で震度6強の地震(後日、益城町と西原村で震度7と判明)
	1:25	南阿蘇村の女性(当時60歳)が同村の黒川に架かる阿蘇大橋が崩れるのを目撃
	1:25	宇土市役所が半壊
	1:30	菊池市が市内全域の1万8688世帯に避難指示
	2:20	俵山トンネル崩落との情報
	2:40	西原村小森で3人生き埋めとの情報
	4:30	阿蘇神社の楼門と拝殿の倒壊を知った市民ら落胆
	4:39	八代市松崎町のアパート火災で死者1人を確認
	4:50	南阿蘇村河陽地区で「多数の家屋倒壊やがけ崩れで複数が生き埋めになっているもよう」との情報
	4:55	西原村の大切畑ダム堤防から大量に漏水し、村が住民に避難指示
	5:50	嘉島町で家屋全壊が相次ぎ、2人が心肺停止
	6:30	八代市松江城町の八代城跡の石垣が高さ約3m、幅約2mにわたり崩れているのを市職員が発見
	7:30	気象庁は会見で「16日午前1時25分発生の地震が、今回の一連の地震活動の本震」と発表



地震で崩れた熊本城二の丸の石垣
4月14日



避難所となった益城町役場駐車場で不安な夜を明かす住民たち 4月15日



給水タンクから水を注いでもらう住民
熊本市北区の龍田小



本震で崩落した阿蘇大橋一帯



倒壊した阿蘇神社の楼門

日	時	熊本赤十字病院の活動
14日	21:26	前震 マグニチュード6.5(暫定値) 災害対策本部立ち上げ 保護装置作動により商用電力遮断、非常用発電機稼働。エレベータ停止 診療体制を災害対応モードに切り替え診療開始(自主参集職員756人) 総合医療情報システム等確認。異常なし
	23:06	熊本赤十字病院DMAT隊が益城町役場へ出動
	23:25	震源地付近の被害状況確認のため先遣隊(医師2、看護師2、事務2人)を派遣
15日		0:20 病院救護班第一班を益城町へ派遣 特殊医療救護車両ディザスターレスキュー出動
	0:24	商用電力(九電)送電再開
	1:14	益城町役場で医療救護活動開始
	1:58	益城町で患者が増加し救護班から応援要請あり
	2:11	エレベータ点検完了、復旧
	8:28	益城町役場から避難者の多い益城町総合体育館へ移動し医療救護活動開始 *4月14日発災~15日 病院受け入れ患者数 364人
		外傷の患者が増加
		特殊医療救護車両ディザスターレスキュー出動 4月15日
16日	1:25	本震 マグニチュード7.3(暫定値) 救急棟停電。一時救急機能ストップ(自主参集職員654人) 非常用発電機は本館、管理棟、エネルギー棟のみで稼働 全エレベータ停止。低圧ガス供給停止 医事システム:救急棟停止(本館は使用可)
	2:44	商用電力送電開始
	2:50	中圧ガス供給停止
	2:57	救命救急センターから病院本館一般外来診療スペース、ホスピタルストリートへ診療エリアを移設し診療開始
	4:40	帰宅困難者を熊本県立大学、日本赤十字社熊本健康管理センターで受け入れ
	5:30	市内広範囲での断水を確認
	7:12	救急棟電機室修理完了。送電開始
	7:40	総合医療情報システム全館復旧
		益城町総合体育館には続々と避難者が押し寄せた
		益城町総合体育館初動 4月15日
		早朝からあわただしい院内 4月16日
		地震前のジェーンズ邸(日赤発祥の地、熊本最古の西洋建築)
		全壊したジェーンズ邸



益城町総合体育館には続々と避難者が押し寄せた



早朝からあわただしい院内
4月16日



地震前のジェーンズ邸
(日赤発祥の地、熊本最古の西洋建築)



全壊したジェーンズ邸

月日	時	地震の被災・被害状況
	9:50	避難者が集まっている熊本市中央区の白川公園などで熊日の号外配布
	11:40	石垣の崩壊が相次いだ熊本城。飯田丸五階櫓は今にもずり落ちそうな状態
	12:50	断水が続く熊本市で、市役所前に給水車
	20:55	県警によると、新たに32人の死亡を確認。14日夜以降の死者は計41人に
4月17日(日)	15:45～	阿蘇市や八代市などが避難勧告 朝までに県内の避難者は855カ所で約18万3000人 18:00前 南阿蘇村立野の土砂崩れ現場から救助した女性1人の死亡確認 21:00現在 マグニチュード3.5以上の余震発生回数が2004年の新潟県中越地震を上回り過去最多に
4月18日(月)	20:41	阿蘇市と産山村で震度5強、南阿蘇村などで震度5弱の余震 南阿蘇村で2人の死亡を確認。14日以降の死者は計44人に 車中泊していた熊本市の50代女性がエコノミークラス症候群で死亡 米軍のオスプレイ2機が南阿蘇村に救援物資輸送。 初の災害支援
4月19日(火)	17:52	南阿蘇村で新たに3人の死亡確認。14日以降の死者は計47人に 熊本空港で国内線の運航を一部再開 八代市で震度5強の余震
4月20日(水)		南阿蘇村で1人の死亡を確認、死者は計48人に 九州新幹線は新水俣―鹿児島中央間で6日ぶりに運転再開
4月21日(木)		14日の前震から1週間。県内に強雨、一時、阿蘇市や益城町などで計11万7287世帯・29万4446人に避難指示や勧告 JR九州が鹿児島線熊本―八代間の運行を再開。熊本―福岡間を結ぶ高速バス「ひのくに号」も



石垣が崩れ今にも崩れ落ちそうな熊本城飯田丸五階櫓 4月16日



九州自動車道に崩落した県道の陸橋 4月17日、甲佐町



投光器で周囲を照らしながら行方不明者を捜索する自衛隊員ら 4月18日、南阿蘇村



白水運動公園に救援物資を下す米軍オスプレイ 4月18日、南阿蘇村



道路を埋め尽くしたがれきの山 4月20日、益城町宮園

日	時	熊本赤十字病院の活動
	10:36	近隣透析施設へ透析患者受け入れ要請。2施設で受け入れ可 スタッフとともに搬送
	16:00	断水により災害用受水槽の残量が65%に減少(満タン時350t)
	18:10	自衛隊より水5t供給(当院の水使用量 120～150t/日)
	20:40	視察/内閣府政策統括官付参事官付参事官補佐・水間保志氏、 東京都保健医療公社副理事長・佐々木勝氏
	23:00	低圧ガス停止のため福岡赤十字病院より患者給食用支援物資到着
	23:03	自衛隊より水5t供給 *4月16日 病院受け入れ患者数 585人
17日	10:00	西部ガスにより厨房のみへ低圧ガスの臨時供給開始
	15:00	中庄ガス供給開始
	16:20	厚生労働省からライフラインに関する問い合わせ 転院患者について県内の受け入れ可能医療機関を確認。地震被害のため受け入れ不可多数
18日	7:45	東北大学総合地域医療教育支援部・石井正教授(宮城県災害医療コーディネーター)来院
	8:30	総合医療情報システム使用再開
	13:15	断水のため災害用貯水槽残量が約27%まで低下。これ以上の透析、緊急手術への対応が困難な状況に 医療用水不足の回避措置として、院内手洗い水道など一部使用禁止
	15:20	厚生労働省現地対策本部長福本氏より100t/日以上継続的な給水決定の連絡あり 陸上自衛隊えびの駐屯地第24普通科連隊(18日～)・航空自衛隊新田原基地(19日～)などにより 24時間体制で病院受水槽へ給水(24日まで継続) *4月17・18日 病院受け入れ患者数(災害対応モード解除まで)448人 *4月14日～ 総計1397人
19日	10:50	院内こころのケア開設 被災地周辺や避難所で車中泊を行う被災者に肺血栓や肺梗塞などエコノミークラス症候群患者が増加。当院救急受診患者にも肺血栓症患者が出始める DVT(深部静脈血栓症)対応チームを結成し、医師らが避難所を巡回 *22日からは、日赤熊本健康管理センターの保健師、運動療法士含む2チームで巡回 車中泊者数の調査および予防のため弾性ストッキングの配布や体を動かす呼びかけを実施 メディアを通じた注意喚起を実施
20日	17:00	休診していた一般外来診療を再開。通常診療を開始 全国の赤十字医療施設から医師・看護師ら41人が病院支援のため到着 5月中旬まで順次交代要員による病院支援あり 地震の影響により診療を休止している熊本市市民病院から看護師17人が支援に 避難所巡回中の小児医療ニーズ評価チームより避難所の患児は各自医療機関へのアクセスが可能、比較的健康状態は良好との報告あり 各避難所で嘔吐・下痢の患者増、原因は手洗い水の不足。救護班では対応困難との連絡あり。ERU資機材を用いて手洗い装置の設置を決定
21日	13:30	



給水支援(国土交通省九州地方整備局提供)



自衛隊により24時間体制で受水槽へ給水 4月18日～24日



石巻から応援に駆けつけた石井正教授 4月18日



エコノミークラス症候群予防を呼びかけるDVTチーム

月日	時	地震の被災・被害状況
4月22日(金)		県のまとめによると、県内の被災家屋は1万棟超
4月23日(土)		九州新幹線が博多―熊本間の運転を9日ぶりに再開 安倍晋三首相が益城町や南阿蘇村の被災地を視察
4月24日(日)		九州新幹線の脱線車両の撤去完了
4月25日(月)		南阿蘇村で1遺体発見、死者は計49人に。震災関連死も13人 熊本市で北区植木町の田底小が11日ぶりに再開
4月26日(火)		南阿蘇鉄道が被災状況を調査、線路や橋梁の復旧費用として30億～50億円かかると試算
4月27日(水)		県災害対策本部は県内の一部損壊を含む被災家屋が約2万7千棟に上ると発表 14日の前震以降、震度1以上の地震は20時現在で964回に九州新幹線は熊本―新水俣間の運転を再開、13日ぶりに全線復旧
4月28日(木)		14日の前震から2週間。死者49人、関連死16人、行方不明者1人、負傷者1491人、住宅被害3万棟超、避難者3万3600人(以上13時半現在)。震度1以上の地震は1019回(19時現在)



避難者に声を掛ける安倍首相
4月23日、益城町木山



復旧作業が続く脱線した九州新幹線



地震発生から11日ぶりに再開した田底小
4月25日



崩落した土砂に巻き込まれ曲がった南阿蘇鉄道の線路



倒壊して道をふさいだ家屋 熊本市中央区

日	時	熊本赤十字病院の活動
22日		益城町の避難所へ感染管理認定看護師を中心とするICTチームを派遣。現地救護班から情報収集、改善策を検討 トイレ用手洗い水不足改善のため、益城町体育館の仮設トイレ近くにERU資機材を用いて手洗い設備を整備
	14:10	救護班よりストーマ(人工肛門、人工膀胱)を持つ患者への対応に関する報告を受け皮膚・排泄ケア認定看護師を中心とするWOCチームを益城町の避難所へ派遣。現地調査と相談窓口案内活動を実施
	16:00	救命救急センターに下肢静脈検査(エコー)チームを配置
	17:00	近衛忠輝日本赤十字社長が視察のため来熊
23日	9:00	南阿蘇の避難所でノロウイルス集団感染の情報あり
	13:00	南阿蘇中学校へノロウイルス対策としてテント4基、簡易トイレの搬送準備開始
	14:20	視察/厚生労働省医政局地域医療計画課長・迫井正深氏 医政局医事課国家試験係長・高原裕弥氏
	15:30	職員を招集し、院内会議室にノロウイルス患者専用スペースを準備
	16:50	ICTチームを南阿蘇中学校へ派遣。感染拡大防止活動を実施 生活スペースでの土足禁止、靴入れ用袋配布、スタッフによる床拭き実施 炊き出し場と仮設トイレを離れた場所へ移動(ゾーニング実施)
24日	10:20	深部静脈血栓症疑い患者増のため、救命救急センターに下肢静脈検査専用コーナーを設置
	16:00	非常用受水槽受水率ほぼ100%に到達
	17:40	低圧ガス復旧。患者給食厨房・職員食堂へ供給開始
25日	7:00	熊本市水道から受水槽へ給水開始(水質等問題なし)
	7:10	自衛隊、県、九州地方整備局へ補給水要請解除連絡
26日	8:15	蒲島郁夫県知事(日本赤十字社熊本県支部長)視察
	11:10	日本赤十字社より富田医療事業推進本部長、小森看護部長が視察のため来院 職員の被災状況調査実施(2回目) 7割の職員が回答 住居の被災状況 【全壊】4【半壊】17【軽度】21【一部】492【なし】404 夜間の宿泊 【自宅等】8割【避難所】19人【車中泊】47【病院】33 職員の疲弊度が高まったため、連休を利用したリフレッシュ期間の確保を検討 病院の人的支援要請⇒日赤医療スタッフによる支援決定 救急部から救急患者数が通常時の1.5倍との報告あり(熊本市市民病院被災の影響か) 病院エスカレーター点検終了。機能上の問題なし 家屋等修理時の転落外傷患者増(当院救急部から報告あり)。メディアを通じて注意喚起を実施
27日	10:00	授乳を行う被災者やストーマを持つ被災者のため益城町の避難所に軽量・高剛性の仮設個室(川上産業製)を4基設置



保健師からの情報をもとに感染対策を図るICTチーム



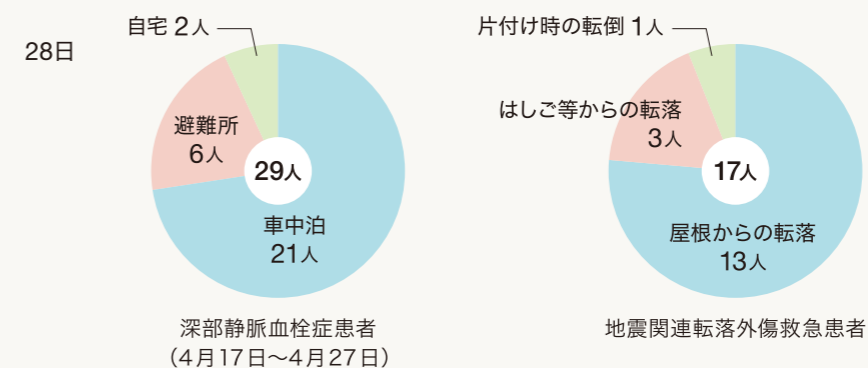
医局朝礼で職員を励まされる蒲島郁夫県知事



ERスタッフに声をかけられる富田医療事業推進本部長と小森看護部長



WATSANチームが設置した手洗い装置



月日	時	地震の被災・被害状況
4月30日(土)		南阿蘇村立野地区被災者の仮設住宅を大津町に建設する方針が明らかに
5月 2日(月)		熊本市内の小中学校23校が授業再開
5月 3日(火)		俵山バイパスの橋りょう5カ所、1カ所のトンネルの被害が甚大であることが県の調査で判明
5月 4日(水)		JR肥後大津一宮地間を大型バスで代替輸送決定
5月 6日(金)		熊本市で被災者へ市営住宅引き渡し開始
5月 7日(土)		熊本城の被害の全容が明らかに。櫓・長塀5カ所全壊 益城町—南阿蘇村のう回路となっている「グリーンロード南阿蘇」が県道に
5月 8日(日)		熊本市はゴールデンウィーク後の小中学校全校授業再開のため、市内避難所58カ所を閉鎖し、21避難所に1900人集約へ
5月 9日(月)		南阿蘇村と益城町の小中学校が授業再開 阿蘇大橋の災害復旧工事が国直轄事業に 浦島知事は復旧復興に向けた被災自治体の事業費負担を実質ゼロにする特別法制定を政府に要望 九州地方整備局は国管理水系172カ所の河川堤防緊急工事を終了
5月10日(火)		
5月11日(水)		県内全小中高校の休校解消
5月12日(木)		水前寺成趣園の池の水位が半分程度回復したことが判明
5月13日(金)		俵山バイパス、長陽大橋の復旧工事が国代りに
5月18日(水)		避難者1万人割る
5月19日(木)		天皇、皇后両陛下が南阿蘇村、益城町で被災者をお見舞い
6月 9日(木)		政府の地震調査委員会は「最大震度6弱程度の余震が発生する可能性は低下した」と発表



校舎損壊のため木工室などで授業をすることになった東野中



橋桁と橋台がずれた桑鶴大橋
4月21日、西原村



本震後、一時は水がなくなり池の底が露出した水前寺成趣園 4月16日



地震前の半分程度にまで水が戻った水前寺成趣園 5月12日



被災者に声を掛けられる天皇陛下
5月19日、南阿蘇中体育館

資料：『平成28年熊本地震 発生から2週間の記録』『平成28年熊本地震 1カ月の記録』
『熊本地震 連鎖の衝撃』 ※2016年発行、熊本日日新聞社
写真提供：熊本日日新聞社

日	時	熊本赤十字病院の活動
1日	15:45	塩崎恭久厚生労働大臣が被災地と当院を視察 全国の赤十字医療施設から多くのスタッフが交代で病院支援に。医師63人、看護職202人、その他事務等20人・支援コーディネーター・調整者の計305人が交代で支援
2日		
3日		避難所からのニーズにより更衣室・授乳室などに利用できるようWATSANチームが仮設の個室を西原村の河原小学校に2基、山西小学校に1基設営
4日		DVT(深部静脈血栓症)チーム マイナートラブルに対応しながら避難所のモニタリングを継続 日赤救護班はゴールデンウィーク明けから終息に向けて規模縮小 心のケア班：熊本の職員向けにも積極的にアプローチ
6日	15:00 17:00	城東小学校で集団食中毒発生連絡あり。救命救急センターで受け入れ準備開始 集団食中毒患者は国立病院機構熊本医療センターほかその近隣医療機関で受け入れ。当院での受け入れなし WOC(皮膚・排泄ケア)チーム：西原村避難所2カ所、在宅医療施設1カ所巡回。 保湿剤不足とのことで、準備を行い今後届けることに
7日	9:00	災害対策本部において西原村dERUの撤収を決定(5月12日予定) DVT(深部静脈血栓症)チーム：日赤熊本健康管理センターと共同でエコノミークラス症候群予防動画を作成、YouTubeで公開 ICT(感染管理)チームから益城保健福祉センターで上水が飲めない状態が継続しているとの報告を受け、WATSANチームが手洗い装置を設置
8日		日本赤十字社こころのケア班が西原村で活動開始、DPATと連携
9日		
10日		益城町の学校再開に併せた更衣室設置の要望を受け、避難所となっている飯野小学校とグランメッセに仮設小部屋を設置 高齢者の肺炎患者が増加。メディアを通じて予防の注意喚起を実施
11日		
12日		
13日		
18日		被災地の医療機関の復旧や避難所の集約化など被災地の状況変化に伴い、全国からかけつけた日赤救護班の活動も徐々に縮小 日赤熊本の救護班でその後の活動を引き継ぐとともに最終的に現地医療機関へ引き継ぐ体制をとるため、日赤熊本救護班が西原村・益城町を中心に巡回診療を開始(～6月2日)
19日	9日	避難所の衛生環境や被災者の心身の健康等にかかる多様なニーズが発生してきたため、特に要配慮者(子ども・高齢者・妊産婦・障がい者)、慢性疾患患者への健康支援事業を開始 西原村で乳幼児健康診査を行う地元保健師をサポートし、学校や保育園等の手が届かない母子の精神的・身体的ケアを実施



受水槽について説明を受けられる塩崎恭久厚生労働大臣



避難所行政職員と今後の活動を検討する日赤救護班



巡回診療のようす



地元保健師の乳幼児検診を手伝う看護師ら

M7.3 熊本地震「本震」

阿蘇大橋崩落 宇土市役所半壊



阪神大震災と同規模



きょう未明 新たに死者10人

【熊本県】熊本地震の本震は、16日未明に熊本県宇土市で発生した。震源地は宇土市宇土町、震源の深さは約10キロメートルと推定されている。この地震は、15日午後11時58分に発生したM7.3の本震とほぼ同時刻に発生した。熊本県によると、16日未明に新たに死者10人が発生した。また、熊本県宇土市で発生した地震は、熊本県宇土市で発生した地震と同規模と推定されている。熊本県宇土市で発生した地震は、熊本県宇土市で発生した地震と同規模と推定されている。

2016年4月16日付 熊本日日新聞 夕刊

◆けが人あふれる熊本赤十字病院
熊本市東区の熊本赤十字病院は地震発生直後から、けが人があふれ返った。傷口を押さえるタオルは血まみれ。ストレッチャーに横たわる人に、馬乗りの職員が心臓マッサージを施しながら院内へ入る姿もあった。

倒れた柱で頭を2針縫うけがをした御船町の木山成雄さん(92)は、やっとの思いで妻禎子さん(87)と家から脱出。「地震の時、横に寝ていた妻をとっさに呼んだ。なんとか生きてやろう、という思いだった」
院内は救命救急センターも停電で使えず、一般外来の通用路にベツドなどを出して治療。加藤陽一救急医(39)は「『まさか』という気持ち。患者が増えるが、なんとかスペースを確保して対応する」と話した。



救急外来でトリアージに当たる熊本赤十字病院の職員。16日午前2時ごろ、熊本市東区 (林田賢一郎)

ただ、停電と水不足で人工透析も機能がまひ。熊本市中央区の教員大窪光さん(64)は「県外の病院を紹介されてもJRも止まり、車の免許もなく通えない」と途方にくれた。

2016年4月17日付 熊本日日新聞 朝刊